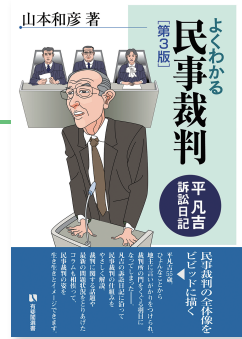


よくわかる民事裁判〔第3版〕 ——平凡吉訴訟日記

山本和彦

2018年11月発売／272頁／本体1800円＋税
四六判／並製



編集
担当者
から

2050年、ある日記の発見——。本書は、2017年にひょんなことから裁判に巻き込まれてしまった平凡吉（たいら・ぼんきち）が遺した訴訟日記を、凡吉の甥で元弁護士の平凡太郎（たいら・ぼんたろう）——日記の発見者——が解説するかたちの2部構成で、民事裁判の全体像を生き生きと描きます。全部で42にも及ぶコラムでは、裁判に関わる話題から最新の問題状況までとりあげました。重要なタームはゴシックで強調しています。これから民事訴訟法の勉強を始める人はもちろんのこと、民事訴訟法を学んでいるけれども裁判のイメージがいまひとつつかめない人も、本書を読めば民事裁判がどのように進んでいくかを具体的にイメージができ、民事訴訟法の理解も進むと思います。勉強の息抜きにもお勧めです。まずは日記の部分を通して読んだり、解説やコラムを拾い読みしたり。それぞれの興味に応じて、本書を繙いてください。(Z)

Index



豊富なコラムと相俟って、民事裁判の姿をビビッドにイメージできます。

- プロローグ——2050年：ある日記の発見 ●判決前夜の平凡吉●
- 1 裁判を始めるにあたって——裁判所へのアクセスのために ●平凡吉、裁判所で驚く●
 - 2 裁判のきっかけ——紛争の発生 ●敷から棒の立退き要求●
 - 3 調停手続 ●裁判官はどこ？●
 - 4 処分禁止・占有移転禁止の仮処分 ●平凡吉、第1撃を食らう●
 - 5 訴えの提起から弁護士との相談へ ●清水の舞台から飛び降りる平凡吉●
 - 6 証拠の収集 ●平凡吉、戦いを実感する●
 - 7 反訴の提起 ●平凡吉、反撃に打って出る●
 - 8 争点を整理するプロセス ●ひざ突き合わせた話合い●
 - 9 弁護士との相談 ●弁護士先生も楽じゃない●
 - 10 和解手続 ●当事者の主体的な解決、それとも裁判所による押し付け？●
 - 11 証人尋問 ●真実発見のための切り札、それともガス抜きのための儀式？●
 - 12 判決合議 ●裁判官の決断と転勤——3月に判決が多いのはどうして？●
 - 13 判決の言渡し ●正義はついに勝つ……かな？●
 - 14 上訴 ●第2ラウンドのゴングは鳴るか？●
 - 15 強制執行 ●紙の上の権利から目に見えるお金に●
- エピローグ——司法改革と21世紀半ばの民事裁判

Column 裁判所の食堂 / 弁護士会の派閥 / 仲裁制度の広がり◆スポーツ仲裁◆ / 弁護士の業務独占に風穴◆サービサー制度の導入◆ / 集中証拠調べの課題◆法律家の労働強化？◆ / テレビ会議システムの利用◆ハイテク尋問◆ / 法曹一元の難点◆転職は難しい◆ / 裁判をしない裁判官◆エリート司法行政官◆ / 子の引渡しの強制執行 etc.